

商法中改正法律案特別委員小委員會議事速記録第一號

帝國議會貴族院

付託議案
有限會社法案

委員氏名

委員長 山岡 萬之助君

子爵舟橋 清賢君

中川 健藏君

仁井田益太郎君

男爵奥田 剛郎君

森 平兵衛君

岩田 寿造君

山隈 康君

大西虎之介君

昭和十三年一月四日(金曜日)午前十時十分開會

○委員長(山岡萬之助君) 是ヨリ商法中改

正法律案特別委員小委員會ヲ開會致シマス、

付託議案デアリマスル有限會社法案、之ヲ

議題ト致シマシテ、政府ノ大體ノ御説明ヲ

承ルコトニ致シマス

○政府委員(大森洪太君) 有限會社法案ニ

付テ一應ノ御説明ヲ申述ベタイト存ジルノ

デアリマス、先づ有限會社ノ大綱ニ付キマ

シテ申述ベマシテ、ソレカラ順次其ノ内容

ニ入ッテ行キタイト存ズルノデアリマス、今朝甚ダ簡単ナル説明書ヲ御手許ニ差上ゲテ置キマシタガ、印刷ガ極メテ不鮮明デ恐縮ヲ致シテ居ル次第デアリマス、其ノ説明書ニ基キマシテ申述ベ行キタイト存ズルノデアリマス、先づ有限會社ヲ認メマスル必要ニ付キマシテヘ、此ノ前大臣カラ申述ベマシタ通リニ、大分以前カラ實業界ニ要望ガアルノデアリマシテ、又學界ニ於キマシテモ、法曹界ニ於キマシテモ、此ノ要望ヲ支

援致シテ居リマシテ、御承知ノ通リニ株式會社ノ株主ト同様ニ有限責任デハアリマスルケレドモ、比較的小人數ノ社員カラ組織セラレマスル關係上、此ノ點ニ於テハ合資會社ノ色彩ヲ帶ビマスル特殊ノ營利法人ガ、

昭和十三年一月四日(金曜日)午前十時十分開會

○委員長(山岡萬之助君) 是ヨリ商法中改

正法律案特別委員小委員會ヲ開會致シマス、

付託議案デアリマスル有限會社法案、之ヲ

議題ト致シマシテ、政府ノ大體ノ御説明ヲ

承ルコトニ致シマス

○政府委員(大森洪太君) 有限會社法案ニ

付テ一應ノ御説明ヲ申述ベタイト存ジルノ

デアリマス、先づ有限會社ノ大綱ニ付キマ

シテ申述ベマシテ、ソレカラ順次其ノ内容

ニ於キマシテモ、先程申シマス通リニ、以前カラ此ノ要望ガアリマシタケレドモ、御承知ノ通リニ商法中ノ會社編ノ全般的ノ改正ヲ致サナケレバナラナイ關係ガアリ

マシタ爲ニ、此ノ會社編ノ全般的ノ改正ヨリ先ダツテ有限會社ヲ認メルト云フコトモ如

何カト思ヘレタノデアリマス、先づ商法中

會社編ノ全般的ノ改正ト共ニ有限會社ニ付

ゴザイマス、左様ナ次第デ今回商法中改正

法律案ト此ノ有限會社法案トヲ同時ニ提出

シタヤウナ次第デアリマス、ソコデ御承知

ノ通リニ各國ニ於キマシテモ、有限會社ヲ

認メテ居リマスル其ノ有限會社ノ内容ニ付

キマシテハソレゞ異同ハアリマスルケレ

ドモ、先づ大體ニ似カヨックモノデアリマシテ、是等ノ共通ノ點ヲ參酌シツ、最モ是ガ宜イト云フ形態ヲマア調査シタノデアリ

マシテ、ソレニ基イタ次第デアリマス、ソ

モ多イノデアリマス、又之ヲ是認シテ居リ

テ、現ニ此ノ種類ノ會社ヲ是認シテ居ル國

スルコトハ申述ベル迄モナイノデアリマシ

テ、現ニ此ノ種類ノ會社ヲ是認シテ居リ

モセヌデモ、法案ニ於テ是認ラシヨウトシ

テ居ル國モ多數アルノデアリマシテ、今日

之ヲ是認シ、又ハ是認セムト致シテ居リマ

ス國ハ、然ルベキ國ノ中デ殆ド其ノ全部ダ

ト申述ベモ宜シノデアリマス、我ガ國

セラレタル所ノ營利社團法人デアリマス、

デアリマスルカラ之ヲ商法中ニ插入致シマシテ、第五種ノ會社トシテモ少シモ差支ナインデアリマスルケレドモ、前回申上ゲマシタ通リニ立案竝ニ運用ノ便宜上カラ之ヲ別法案ニ致シタ次第デアリマス、第二ニハ社員ノ責任ハ株式會社ノ社員、即チ株主ト同様ニ其ノ出資ノ金額ヲ限度トスルノデアリマシテ、即チ有限責任デアリマス、尤モ是ガ原則デアリマシテ、一二ノ例外ノ場合ガアルノデアリマス、ソレハ後ニ申述ベマスルガ、原物出資ナリ、財產引受ノ財產ノ價格ノ評價ノ著シク不當デアリマシタ場合ニ、之ヲ適正ニ致シマスルガ爲ニ、此ノ不足額ヲ填補スル責任ガアリマス、又是ハ矢張リ後ニ申シマスルガ、出資ハ全部即時ニ提供ヲシナケレバナラナイノデアリマスガ、ソレ等ノ漏レガアリマシタ場合ニ、其ノ未償部分ニ付テ矢張リ填補責任ガアリマス、是等ガ設立ノ際ニモ生ジマスルシ、又資本増加ノ際ニモ生ズルノアリマス、是等ノ填補責任ガ今申シタ出資ヲ限度トスル有限責任ノ例外ニ相成ラウカト存ズルノデアリマス、第三ニ社員ノ數デアリマスルガ、先程申述ベマシタ通リニ、有限會社

ハ相互ニ信賴致シマスル少數者ヲ以テ組織スルト云フ所ニ一ツノ特徵ヲ有ツテ居リマスルガ爲、多數ノ社員ヲ包容スルト云フコトハ避ケナケレバナラナイノデアリマシテ、是ガ多數ノ社員ヲ包容スルト云フコトニナリマスト、株式會社ト全ク變リヘナクナツテシマウ虞ガアルノデアリマス、其ノ點ヲ考慮致シマシテ、社員ノ數ヲ原則トシテ五十人ト云フコトニ致シマシタ、五十人ヲ超エテハイケナイト云フコトニ致シマシタ、此ノ五十人ノ限度ニ付テハ是亦議論トシテ種々問題ガ起ルト存ズルノデアリマスルガ、外國ノ法則ハ必ズシモ参考ニハナリマセヌケレドモ、簡單ニ其ノ一般ヲ申シマスルト、五十人以下ニ制限致シテ居リマスルモノハ「イギリス」法、「チリ」法、「トルコ」法ニ、「スペイン」ノ法案デアリマス、三十人以下ニ制限スルコトガ出來ルトシテ居リマスモノガ「リフィテンシュタイン」ノ法律デアリマス、二十五人以下ニ制限シテ居リマスモノガ「イタリー」ノ法案デアリマス、又二十人以下ニ制限シテ居リマスモノガ「ベルギー」ノ法案デアリマス、ソレカラ何等人數ノ最高限ヲ制限致シテ居リマセヌモノハ「ドイツ」法、「オースタリー」法、「フランス」法、「スイス」法等デアリマス、併シ此ノ人數ヲ制限シ

テ居リマセヌ國ニ於キマシテモ、或モノハ
資本ノ最高額ヲ限定シテ居ルモノモアリマ
ス、即チ人數ノ方デナク、資本ノ方カラ限
定スルト云フ建前ノモノモアルヤウデアリ
マス、以上種々ノ法制ガアルノデアリマス
ルガ、是亦例外ガアリマスルケレドモ、極メ
テ概括的ニ申シマスルト、比較的近ク立案
サレタ法則ニ於キマシテハ、人數ノ制限ト
云フコトニ重キヲ置イテ居ルヤウデアリマ
ス、想フニ此ノ有限會社ノ得失カラ、人數
ノ制限ヲシタ方ガ宜イト云フ實際上ノ見地
カラ、斯様ナ傾向ニ相成ッタモノト存ズルノ
デアリマス、從ツテ此ノ法案ニ於キマシテモ
五十人ヲ限則トスルト云フコトガ適當デハ
ナイカト存ジタ次第デアリマス、尤モ此
ノ五十人ノ限度ニ付テハ幾分緩和的規定
ヲモ設ケテ置キマシタ、ソレハ後ニ申述
ベタイト存ズルノデアリマス、第四ニ資
本ノ額デアリマスルガ、有限會社ハ、小
規模ノ會社、小仕掛ノ會社デアリマスケレ
ドモ、此ノ小仕掛ト云フコトハ、即チ小人
數ノ社員ガシンミリト互ニ相寄テ組織ラ
スルト云フ趣旨デアリマシテ、其ノ營業ノ
範圍ニ限定ラスルト云フ趣旨デハナインデア
リマス、從ツテ資本ノ最高限度ハ限定ヲ致シ
マセヌデシタ、併シ資本ノ最小限度ヲ定メ

マシテ、之ヲ一萬圓ド致シマシテ、即チ資本金一萬圓ヲ下ラザル有限會社ハ有リ得ナ
イト云フコトニシタノデアリマス、ソレハ後ニモ申シマスルガ、此ノ有限會社ノ特質ニ鑑ミマシテ、其ノ設立手續等ニ付キマシテハ、株式會社ノ如ク嚴重ナル規定ヲ以テ臨ミハ致サナカツタノデアリマス、即チ株式會社ニ比シマスルト、其ノ設立ガ大分容易ニナル譯デアリマス、デアリマスルカラ兎モスレバ此ノ會社ヲ濫設スルト云フ弊害ガナイトモ限ラナイノデアリマシテ、個人ガマルデ此ノ有限會社ノヤウナ額ヲスルト云フコトノ弊害ガ考ヘラレマスルカラシテ、資本ノ最小限度ヲ定メルコトガ適當デアルト存ジタ次第デアリマス、第五ニ出資一口ノ金額ハ、百圓ヲ下ルコトノ出來ナイモノト致シマシテ、出資ヲ均一ニ致シマシタ、丁度其ノ關係ハ株式會社ノ株式ト同様ニナルノデアリマシテ、唯此ノ金額ヲ百圓ト致シマシタノハ、今日ノ經濟事情カラ考ヘマシテ、一口此ノ位ノ程度ノ所ガ宜クハナイカト存ジタノデアリマス、ソレカラ第六ハ、持分ノ讓渡ニ付テ重大ナル制限ヲ加ヘタノデアリマス、是亦有限會社ノ特質ニ順應スルモノデアリマシテ、少數ノ相互ニ信賴スル社員ノミヲ以テ組織スル會社デアリマスカラ、

此ノ社員ガ常ニ移動スルト云フコトハ甚ダ
面白クナイノデアリマス、持分ヲ譲渡致シ
マスレバ、其ノ結果ニ於テ社員ノ移動ヲ生
ジマスルカラ、ソレヲ防ギマスル爲ニ、持分
ノ譲渡ハ社員總會ノ特別決議が必要デアル
ト云フコトニ致シマシタ、又持分譲渡ノ結
果、前申シマシタ人數ノ最高限度ヲ逸脱ス
ルト云フヤウナ場合ニハ、此ノ譲渡ガ無效
デアルト云フコトニ致シマシタ、斯ク譲渡
ニ付テ重大ナル制限ヲ置キマシタケレド
モ、社員相互ノ間ニ持分ヲ譲渡シマス場合
ハ、是ハ社員ニ移動ヲ生ジマセヌカラシテ、
此ノ點ニハ緩和的規定ヲ以テ臨ンダ次第デ
アリマス、第七ニハ、設立ノ際ニ出資金額
ノ拂込ヲ必要トスル、又現物出資ヲ認メマ
スルナラバ、其ノ全部ノ財産ノ即時提供ヲ
必要トスルコトニ致シマシタ、即チ分割拂
分割給付ト云フコトヲ認メナカッタノデア
リマス、是ハ有限會社ノ設立手續ハ比較的
容易デアリマスカラ、是ガ甚ダ亂雜ニナリ
マシテ、有限會社ノ基礎ガ危クナルト云フ
コトガアリマシテ、由々敷キ大事デアリマ
スルカラ、全額即時提供ト云フコトニ致シマ
シテ、サウシテ、此ノ基礎ノ確實ヲ圖ツタ次第
デアリマス、第八ハ、現物出資及財產引受
ノ場合デアリマスルガ、此ノ評價ガ著シク

不當デアリマスルナラバ、設立當時ノ社員ハ連帶シテ之ガ墳補ノ責任ヲ持ツト云フコトニ致シマシタ、是亦有限會社ノ基礎ノ確實ヲ圖ル所以デアリマシテ、サウシテ又有限會社ガ比較的容易ナル設立手續ニ乘ジテ、濫設サレルコトノナイコトヲ期シタ次第デアリマス、第九ハ、拂込ノ未済ナモノガアリ、又現物出資ノ給付ノ未済ナモノガアリマシタナラバ、會社設立當時ノ取締役、監査役、ソレカラ社員、是等ガ連帶シテ墳補ノ責ニ任ズルト云フコトヲ明カニ致シタノデアリマス、第十ハ、監査役ヲ置クカ否カト云フコトハ法律デハ強制致シマセヌデシタ、置イテモ宜イ、又置カナクテモ宜イト云フコトニシタノデアリマス、是ハ元々相信賴スル社員同士デ出來テ居ルノデアリマスルカラ、常ニ必ズ監査役ヲ置カナケレバナラヌト云フコトハ寧ロ水臭イノデアリマシテ、大抵ノ所ハ社員相互ノ間デ、其ノ同意ナリ決議ナリデ賄ヒ得ルト云フコトニ致シマシタ、監査役ノ制度ヲ必要制度トハ致サナカシタノデアリマス、第十一デアリマスルガ、先程申シマシタ第八及第九ノ墳補責任ヲ資本増加ノ場合ニモ認增加ハ或意味ニ於テ設立ノヤウナモノデア

リマス、第十二ハ、社員總會ニ於ケル決議
八第九ノ責任ハ、當然資本増加ノ際ニ生ジマスル第
ヲ認メナケレバナラナイト存ジタ次第デア
リマス、第十二ハ、社員總會ニ於ケル決議
權デアリマスルガ、是ハ出資一口ニ付テ一
個ト致シマシタ、勿論是亦原則デアリマシ
テ、定款デ別段ノ定ラスルコトヲ認メテ居
ルノデアリマスルガ、此ノ出資一口ニ付テ
一票ト云フ原則ハ、株式會社ト矢張リ同趣
旨デアリマシテ、實行上ニモ是ガ極メテ便
利デアラウト思ツタ次第デアリマス、第十三
ハ決議デアリマスルガ、此ノ社員總會ノ決
議ハ矢張リ株主總會ト同様ニ、事ノ輕重ニ
依リマシテ通常決議ト特別決議トノ二種ヲ
認メマシタ、申上ガル迄モナク通常決議ハ
比較的容易ナ決議方法デアリマスルシ、特
別決議ハ比較的重大ナル決議方法デアリマ
ス、尙後ニ申述ベマスルガ、此ノ有限會社
ニ付キマシテハ特別決議ニ於キマシテ、株
式會社ヨリモ嚴重ナル決議方法ヲ定メタノ
デアリマス、尤モ其ノ表決數ニ於テ嚴重デ
ハアリマスルケレドモ、後ニ申述ベマスル
程樂デアリマシテ、餘程ノ裕リヤ存スル規
定ヲ置キマシテ、又書面ニ依ル決議ト云フ
便法モ認メタ次第デアリマス、第十四ガ即

會社トガ合併ヲ致シマシテ、有限會社ガ残リ又ハ作ラレル場合モアリマスルシ、又株式會社ガ残リ、又作ラレル場合モアリマスガ、併シ合併ニ付テハソレダケヲ認ヌタノデアリマシテ、合名會社トノ合併、合資會社トノ合併、株式合資會社トノ合併ハ不必要デアルト云フ考カラ之ヲ認メマセヌデシタ、又有限會社同士ノ合併ハ、有限會社ト株式會社トノ合併ノ結果、残リ又ハ拵ヘラル、會社ガ合名會社デアルトカ、合資會社デアルトカ、株式合資會社デアルト云フヤウナコトハ、是亦必要ナシトシテ認メナカッタノデアリマス、第十七ハ、有限會社ガ、其ノ組織ヲ變更致シマシテ株式會社トナシ得ル途ヲ開イタノデアリマス、有限會社ヲ拵ヘマシテ、是ガ段々ト營業ヲヤツテ居リマスル其ノ營業ノ實績ニ徵シマシテ、多數ノ株主ヲ糾合シテ株式會社トシテ營業ヲシタ方ガ宜イト斯ウ思フナラバ、其ノ組織變更ヲ致シマシテ、株式會社ニスルト云フ途ヲ開クトガ適當ダト考ヘタノデアリマス、唯此ノ場合ニ、株式會社ニ付キマシテハ先程申述ベマシタ通リニ、設立手續ガ比較的嚴重デアリマスルカラ、先ヅ有限會社ヲ作ツト云フ所謂脫法的ノ手續ガ起リ得ルコト

モ豫想致シマシテ、有限會社ニ組織變更ニ依リマシテ株式會社ニシマスル場合ニハ、裁判所ノ認可ヲ經ナケレバナラナイコトニ致シマシタ、先程申述ベマシタ有限公司社ト株式會社トガ合併ノ結果株式會社ガ出來ルト云フ場合モ、矢張リ裁判所ノ認可ヲ必要ト致シマシタ、第十八ハ、株式會社ガ其ノ組織ヲ變更シテ有限會社トナレルト云フ途ヲモ開イタノデアリマス、是ハ將來モ此ノ必要ガ起リマセウガ、此ノ法律ガ施行サレマスルナラバ、從來有限會社的會社デハアリマスケレドモ、有限會社ニ關スル規定ガナイガ爲ニ、已ムヲ得ズ株式會社トシテ設立サレタト云フモノモアリマセウ、サウ云フモノガ此ノ規定ニ依リマシテ組織ヲ變更シテ有限會社ニナル、即チ元々希望スル本來ノ形ニ立チ直ルト云フ途ヲモ開カナケレバナラナイノデアリマンテ、第十八ハソレ等ノ必要ノ爲ニ設ケタノデアリマス、第十九ハ、貸借對照表ノ公告ハ強制シナイコトニ致シマシタ、是亦小規模ト云フ特質ニ鑑ミタノデアリマシテ、斯様ニスルコトガ適當デアラウト存ズルノデアリマス、第二十八、社債ノ募集ニ付テノ規定ハ設ケマセヌデシタ、即チ株式會社ノ如キ、廣ク社債ヲ募集スルト云フヤウナコトハ、

有限會社ニハ適當デナイト考ヘタノデアリマス、尙之ニ率聯致シマシテ、前年此處デ申述ベマシタ株式社會ニ付テ、會社ノ整理特別清算ト云フ制度ヲ設ケマシタガ、有限會社ニハ是亦其ノ必要ナキモノト考ヘマシテ、整理、特別清算ノ規定ハ有限會社ニハ及バナイモノト致シタノデアリマス、以上ハ大體ニ於テ、斯様ナ趣旨ニ於テ有限會社ト云フモノヲ拵ヘヨウトシタト云フコトヲ大略申述ベタノニ過ギナインデアリマシテ、甚ダ簡単デ恐縮デアリマシタガ、更ニ内容ニ入リマシテ申述ベタ方ガ或ハ適當カト存ズルノニアリマス

○委員長(山岡萬之助者) 此ノ際大體ニ付テ御質問ガアリマシタラ願ヒマス

○男爵奥田剛郎君 此ノ有限會社法案ナルモノガ出來マシタ理由ハ、諸國ノ立法例モ相當ニアリ、現在ニ於テ斯ウ云フモノガアルノガ便利ダト云フノガ趣旨デアリマセウカ、ソレトモ斯クノ如キ有限會社ナルモノヲ設ケルト云フ事柄ガ、何カ差迫ツテ必要デアルト云フ理由ガ他ニアルノデゴザイマセウカ、ソレヲ伺ヒマス

○政府委員(大森英太君) 現在特ニ差迫ツテ斯ウ云フ會社ガ、有限會社トシテ出來ナケレバナラナイト云フコトハアリマセヌケ

レドモ、御承知ノ通りニ丁度株式會社ノ株會社ノヤウニ、比較的少人數ノ親シイ者ガ寄合ツサウシテ斯ウ云フ會社ヲ組織スル、斯ウ云フ營業經營ノ狀態ガ甚ダ此ノ實業界ノ實情ニ適スルノダサウデアリマシテ、既ニ諸國ニ於テモ設ケラレ、又其ノ實績モ非常ニ舉ガッテ居リマスノミナラズ、我國實業界ニ於テ多年ノ要望トシテ是ガ現レテ居ツタノデアリマス、併シ前ニモ申述ベマシタ通リニ、商法中ノ會社編ノ全般的改正ト云フコトヲ控ヘテ居ツタモノデアリマスカラ、實ハソレヨリモ先ツ先ニ手ヲ著ケルベキデアツカモ知レマセヌケレドモ控ヘテ居ツタヤウナ次第デ、今度商法中改正法律案ノ御審議ヲ願ツテ居ルノデアリマスガ、幸ニ是ガ成立スルニ至リマスナラバ、是ト併セテ共ニ有限會社ト云フモノヲ是認シテ行キタイト思ツタ次第デアリマス

内閣ニ於テ設ケラレマシタ法制定審議會ニ對シマシテ、又此ノ法制定審議會ノ内ニ於キマシテ、斯カル會社ヲ認メナケレバナラヌト云フコトガ強ク論議ヲサレマシタ、其ノ結果法制定審議會ノ決定要綱ノ一ツトシテ、斯カルモノヲ認ムベシ、サウシテ之ヲ商法中デナク、便宜上ノ問題デアリマスケレドモ、別法典トスベシト云フ要綱ガ決定サレタ次第デアリマシタ

○山隈康君　此ノ法案ヲ見マスト、準用致シマシタ商法ト云フノハ、商法改正草案ヲ目指スモノト存ズルノデアリマスガ、大體準用致シマシタ商法改正草案ノ條文ガ二百箇條以上ニ及ンデ居ルノデアリマシテ、而モ其ノ二百箇條ノ中ニ更ニ他ノ商法ヲ援用シタ部分ガ相當アルヤウデアリマス、若シ此ノ商法改正草案ガ此ノ準用部分ニ對シテ變更ヲ加ヘラレタ場合ニハ、直チニ此ノ法案ニ影響ヲ來スモノト思フノデアリマス、此ノ故ニ商法ノ改正法案ガ審議確定シタ後ニ、初メテ此ノ法案ヲ審議スルノガ至當デタ點カラシテ大體政府ノ御意嚮ハ想像ハ付キマスガ、尙此ノ點ニ付テ一應政府ノ御所見ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス

スル審議ノ方針ニ付キマシテハ、固ヨリ私ノ申上グベキ所デハアリマセヌケレドモ、御說ノ通リニ商法中改正法律案ノ條文ヲ甚ダ多ク準用シテ居リマスル結果、商法中改正法律案ニ若シ變更ガ加ヘラレマスナラバ、勢ヒ此ノ法案ニモ影響ヲ及スコトハ全ク御意見ノ通リデアリマス、唯先程申シマシタ通りニ、有限會社ハ商法上ノ會社ト殆ド全起案致シマスニ付テハ、ドウシテモ準用トク同一ノ性質ノモノデアリマスカラ、之ヲ云フコトガ便利デモアリ、又必要デモアルノデアリマシテ、準用ニ依ツテ其ノ關係ヲ明カニスルト云フコトガ蓋シ適當デアラウト思ッタノデアリマス、デ私共ニ致シマシテハ、此ノ兩法案ガ同時ニ成立致シマスルコトヲ固ヨリ希望ハ致シテ居リマス、唯商法中改正法律案ノ規定ガ變更サレルナラバ、此ノ法案ニモ多少ノ變更ヲ生ズルト云フコトハ蓋シ已ムヲ得ナイコトカト存ジテ居リマス○山隈康君 斯ウ云フ場合ヘナイデセウカ、商法改正法律案ノ一部ガ改廢サレタ場合ニ於テハ、更ニ此ノ有限會社法ノ審議ヲ變更ナケレバナラヌ必要ノアルコトノ御想像ハナイデセウカ

バ、ソレヲ其ノ儘準用シテ居リマスル部分ニ付テ、有限會社ノ内容ヲ變更シナケレバナラナイト云フコトハ起ルカモ知レナイノデアリマス、併シ私共ハ有限會社ノ大綱トシテハ、今申述べタヤウナ趣旨ニ從ツテ作ラルベキモノト存ジマスルカラ、若シ萬一商法中改正法律案ノ或種ノ規定ニ重大ナル變更ガ及サレマスルナラバ、其ノ準用ノ部分ヲ此ノ點カラ除イテ、サウシテ別ニ規定ヲスルト云フ方法ヲ執ルノ外ハナイカト存ジテ居リマス

限會社ノ意義ヲ定メタモノニアリマス、即チ先程モ申述ベマシタ通リニ、商法上ノ會社ト同様ニ「商行爲其ノ他ノ營利行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ本法ニ依リ設立」セラレマシタ所ノ社團法人ヲ謂フノデアルト云フコトヲ明カニ致シタ次第デアリマス、第二條ハ有限會社ガ商行爲ヲ業ト致シマセヌ場合デモ、即チ營利事業デハアリマスルケレドモ、商行爲トシテ列舉セラレタル以外ノ營利事業ヲ業ト致シマスル場合ニ、商行爲ヲ業ト致シマセヌカラ、性質上ハ商人デナインカモ知レマセヌケレドモ、是ダケ別種ノ取扱ヲ爲スコトハ固ヨリ不當デアリマスカラ、矢張リ商人ト看做スト云フ規定ヲ置イタノデアリマシテ、商法中改正法律案ノ第四條第二項ト同ジ趣旨ニ取扱フト云フ意味デアリマス、第三條ハ有限會社ノ商號ニハ、有限會社ト云フ文字ヲ用フルト云フコトヲ明カニシタノデアリマシテ、是ハ矢張リ商法中改正法律案ノ第十七條ト同様デアリマス、尙有限會社デナイモノハ商號中ニ、有限會社タルベキコトヲ示スヤウナヲ他ヨリ譲受ケタモノデアリマシテモ、自己自身ガ有限會社デナイ限リヘ、左様ナ文字ヲ用ヒテハイケナイト云フコトニシタノデアリ

ト同様ノ趣旨デアリマス、第四條ハ商法ノ條項ヲ準用シテ居ルノデアリマスルガ、是ハ商法ノ中ノ會社編ノ總則ニ關スルモノ若干ノ規定デアリマシテ、會社ノ住所ニ關スル規定、又會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトハ出來ナイト云フ規定、ソレカラ會社ノ成立ハ設立ノ登記ヲ本店ノ所在地デ爲スコトニ依ツテ行ハレルノデアル、即チ登記ガ會社ノ成立要件デアルト云フ點、ソレカラ裁判所ノ解散命令、即チ會社ガ或期間内開業ヲシナイ、或ハ又公序良俗、其ノ他法令ニ反スル行爲ヲ爲シタ場合ニ對スル解散ノ規定、ソレカラ登記ニ付キマシテ、官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ關スル其ノ他ノ登記期間ヘ、許可書ノ到達シタ時カラ始マルト云ツタヤウナ規定ヲ有限會社ニ矢張リ準用スルト云フコトニナルノデアリマシテ、是亦極メテ當然ノコトデハナイカト存ジタ次第デアリマス

關スル規定ヲ網羅シタモノニアリマス、先程申述べマシタ通リニ、有限會社ハ株式會社ニ比ベマシテ、其ノ設立ノ手續ガ餘程容易デアリマス、又簡単デアリマス、有限會社ガ小規模ノ會社デアリマスカラ、是ニ對シテ左程重大ナル規定ヲ以テ臨ム必要ガナリ、寧ロソレハ却テ弊害ガアルト考ヘタカラデアリマス、御承知ノ通リニ商法中ノ會社デハ、合名會社、合資會社ガ設立手續ガ極メテ簡單デアリマシテ、定款ノ作成及設立ノ登記ト云フダケノ手續デアリマス、此ノ有限會社ハ株式會社ヨリハ容易デアリマス、併シ合名會社、合資會社ヨリハ稍、錯雜デアリマシテ、丁度其ノ中間ニ位スルモノデアリマス、即チ有限會社ノ設立手續ト致シマシテ、先づ定款ヲ作成致シマス、ソレカラ設立手續中ニ出資全額ノ拂込ヲシテシマハナケレバナリマセヌ、又現物出資ガアリマスルナラバ、此ノ現物出資財產全部ノ提供ヲシテシマハナケレバナリマセヌ、又定款ニ取締役、監査役ヲ置クコトヲ定メマシタ場合ニ、何ノ某ヲ取締役ニ、何ノ某ヲ監査ニスルト云フコトヲ極メナイデ、唯是等ノ者ヲ置クト云フコトニ致シタ場合ニ、此ノ取締役、監査役ノ選任ヲ致サナケレバナリマセヌ、是ハ會社成立前

ニ社員總會ノ形デ選任サセルト云フコトニガアリマシタ場合ニハ、社員總會ヲ開イテ選任ヲスルト云フコトモ設立手續ノ一ツデアリマス、サウシテ設立登記ヲスル、設立アリマス、登記ニ依ツテ會社ガ成立ヲスル、是ダケガ設立ノ手續デアリマス、ソレ等ニ關シテ第二章ガ規定ヲ設ケテ居ルノデアリマシテ、第五條ハ、有限會社ノ設立ニ付テハ先づ以テ定款ヲ作ラナケレバナラスト云フコトヲ明カニシタノデアリマス、第二項ハ、商法ノ規定ヲ準用シテ居リマスルガ、是ハ御承知ノ通り、定款ハ公證人ノ認證ヲ經ナケレバノ效力ガナイト云フコトヲ此ノ草案デ明カニシタノデアリマス、矢張リ有限會社ニ付テモソレト同ジク公證人ノ認證ニ依ラナケレバナラナイモノト致シタ次第デアリマス、第六條ハ定款ノ絶對的記載要件ヲ規定シタモノニアリマス、是ハ株式會社ノ定款ニ類似ヲ致シマスルガ、唯甚ダシク趣ヲ異リマス、ソレ等ノ公告ニ付キマシテハ第十八條ノ規定デアリマス、是ハ其ノ場合ニリマス、ソレ等ノ公告ニ付キマシテハ第七條ノ雜則中ニ規定ヲ致シマシタ、即チ第八條ノ規定ヲ致シマシタ、即チ第八十九条ノ規定デアリマス、是ハ其ノ場合ニリマス、御承知ノ通リニ、株式會社ノ定款申述ベタイト存ズルノデアリマス、第七條ハ定款ノ相對的必要事項ニ付テノ規定デアリマシテ、商法ノ株式會社ト此ノ點ハ大シタ違ヒガナイノデアリマス、即チ茲ニ書イニ於キマシテハ總株主ノ氏名ヲ書クト云フヤウナコトハ致シマセヌ、又ソレヲ強制シテモ到底出來ナイコトデアリマシ、又不必要ナコトデモアリマス、併シ有限會社ニ

於キマシテハ、先程來申述べマス通リニ、社員ガ何人デアルカト云フコトガ相當重要ナ問題ヲ持ツノデアリマシテ、此ノ點ニ於テ稍、人的會社的色彩ヲ持ツノデアリマス、モノノワ茲ニ挿入シタ次第デアリマス、尙株式會社ノ定款ノ絶對的記載要件ト比べマシテ、會社ガ公告ヲナスノ方法ト云フノガ脱ケテ居リマス、是ハ有限會社ガ小規模ノ會社デアルト云フ關係カラ致シマシテ、左程公告ヲスルト云フ必要ガ濃厚デナインデモ宜シイ、六十人デモ宜シイ、斯ウ云フ譯デアリマス、ソレハ他ノ關係カラ矢張リス様ナ希望ガアッタノデアリマスルガ、同業組合式ノ有限會社デアリマストカト云フヤウナ場合、同ジャウナ者ガ七十人寄ツテ居ル、是ガ一ツ不可分ノ關係ニ於テ有限會社ヲ拵ヘタイケレドモ、五十人ト云フコトニナルト、ドウシテモニツニシナケレバナラナイ、ソレガ甚ダ不便デアル、不都合デアル、斯ウ云ツタ場合、此ノ七十人ト云フ一ツノ團體ヲ以テ一ツノ有限會社ニスルコトガ左シテ不都合ガナイナラバ、矢張リ左様ナ場合ニ一ツノ有限會社ヲ拵ヘルト云フコトヲ認メタ方ガ宜イ、斯様ナ關係カラ致シマシテ、左様ナ特殊ノ事情ガアリマシテ、其ノ特殊ノ事情ガ是認セラル、ナラバ、是ハ裁判所ノ正シイ判斷ノ結果ニ依リマシテ、有限會社トシテ宜シイ、斯ウ云フコトニ致シタノデアリマシテ、第一項本文ニ對スル

緩和的規定ヲ置イタノデアリマス、第二項ヘ、
是ハ實際ニ於テ餘リ多ク起ルコトハナイデ
アリマセウガ、遺産相續ナリ、遺贈ナリノ
場合ニ社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合ガアリ
得ルノデアリマス、例ヘバ丁度五十人ノ社員
ガアリマシテ、謂ハバ滿員デアリマス、其
ノ中ノ甲ガ死ニマシテ遺產相續ガ始リマシ
タガ、甲ノ子供ガ「エー」、「ビー」、「シー」、
ノ三人アル、斯ウ云フ場合丁度社員ノ數ガ
五十二人ニナリマス、左様ナ遺贈ナリ、遺產
相續ノ場合ニ植エルコトハ、是ハ致シ方ガ
ナイノデアル、ソレハ許シテモ宜イト云フ
コトヲ第二項デ明カニ致シタノデアリマス、
第九條ハ先程申シマシタ資本ノ總額ノ最小
限度ニ關スル規定デアリマシテ、最高限度
ハ之ヲ定メル必要ナシト云フコトニ致シマ
シタケレドモ、此ノ有限會社ノ設立手續ハ
比較的容易デアリマスカラ、唯一個人ガ名
ヲ有限會社ト云フモノニ藉リテ、サウシテ
マセヌカラシテ、限度ヲ一萬圓ト致シマシ
テ、有限會社ノ信用確保ヲスルト云フコト
ニ致シタ次第デアリマス、第十條ハ矢張リ
先程申シマシタ出資一口ノ問題デアリマス
ガ、是ハ均一制度ニ致シマシタ、均一制度
ニ致シマスト、丁度株式會社ノ株式ト同様

デアリマスガ、斯様ニ致シマスコトハ、議
決権ノ計算ニモ利益配當ニモ大變樂ナノデ
アリマスカラ、又斯ウ云フ均一制度ニハ我
社ニ付キマシテモ其ノ主義ヲ採ッタノデア
リマス、但シ其ノ金額ニ付テハ、株式ハ御
承知ノ通リニ原則トシテ五十圓デアリマス
ケレドモ、是ハ百圓ヲ下ルコトガ出來ナイ
ト致シマシタ、今日ノ狀態ニ於キマシテハ
百圓ト云フノガ結構ヂヤナイカト思ッタ次
第デアリマス、次ニ第十一條デアリマスガ、
後ニ申述ベマスガ、有限會社ニ於キマシテ、
行スルト云フ者ハ取締役デアリマス、デアリ
マスカラ、取締役ハ是ハ必ず必要ナル機關
デアリマス、普通取締役ハ定款デ以テ之ヲ
定メルモノデアリマセウ、取締ハ何某又ハ
何ノ某及何ノ某、斯ウ定メルノデアリマセウ
ガ、場合ニ依リマシテハ、定款デ取締役ノ名
前ヲ定メナイト云フヤウナコトモアリ得ル
ノデアリマセウ、處ガ會社ガ成立致シマス
ト、直チニ取締役が必要デアリマスカラ、
會社成立前ニ取締役ヲ定メテシマハナケレ
バナラヌ、ソコデ會社成立前ニ社員總會ヲ
選任スルト云フコトヲ必要手續ニ致シタ
開キマシテ、左様ナ場合ニハ取締役ヲソコ

ノデアリマス、矢張リ後ニ申シマスガ、社員總會ハ取締役ガ招集スルノデアリマスガ、此ノ場合ハ取締役ガマダ出來テ居リマセヌ、マダ會社成立前デアリマスカラ、其ノ招集ニ付キマシテハ各社員ノ招集デ宜シイ、餘程其ノ招集ノ手續ヲ自由ニ致シマシタ、是ガ第二項ノ規定デアリマス、第十二條ハ矢張リ先程申述べマシタ出資全額ノ拂込ヲ必要トスル、又現物出資ヲ認メマスナラバ、其ノ目的タル資產ノ全部ノ給付ヲ必要トスルトキマシテハ、御承知ノ通リニ、現物出資ヲ認メマスルナラバ、現物出資ニ付テハ必ズ全部即時ニ給付ヲシナケレバナラナイト云フコトヲ明カニ致シマシタ、併シ現金出資ニ付テハ、御承知ノ通リニ、勿論分割拂込ヲ認メテ居ルノデアリマス、然ルニ有限會社ハ付キマシテハ此ノ分割拂込ハ絶對ニ認メナインデアリマス、詰リ斯ウ云フ會社ハ、其ノ設立ガ容易デアリマスカラ、是ガ濫用サレテハイケナイト云フコト、及ビ其ノ基礎ガ、法律デハ非常ニ其ノ手續ニ付テ干渉ハ致シマセヌケレドモ、其ノ性質自體ニ於テ基礎ガ確實ニナツテ居ナケレバイケナイト云フ趣旨カラ致シマシテ、斯様ニ全額ノ拂込及給付ヲ必要トスルヤウニシタノデアリマス、

デアリマスカラ、有限會社ガ一旦出來マシテ、更ニ之ヲ手廣クヤラウト云フヤウナ場合ニハ資本ノ増加ノ途ヲ選ブノ外ハナイノデアリマシテ、分割拂込ガナイノデアリマスルカラ、第二次、第三次ノ拂込ヲ命ズルト云フコトハアリ得ナイノデアリマス、只今申述べマシタ通り、現物出資ハ之ヲ即時全部給付ヲシナケレバナリマセヌケレドモ、其ノ出資ノ目的物ニ依リマシテハ、登記登録等ヲ要スルモノモアリマス、此ノ登記登録ノ手續ハ會社ガ成立シテカラデ宜シイト云フコトニ致シタノデアリマシテ、商法中改正法律案モ左様ニナシテ居リマス、ソレト同趣旨ニ其ノ規定ヲ第二項ニ準用シタ次第デアリマス、サウシナケレバ登記登録ヲ一度モヤラナケレバナラスト云フ煩ガ起リ得ルカラデアリマス、第十三條ハ設立登記ニ關スル規定デアリマシテ、其ノ期間ハ拂込又ハ給付ノアツタ時カラ一週間内ニヤラナケレバナラナイト云フコトヲ第一項デ明カニ致シマシタ、第二項ハ其ノ登記事項デアリマシテ、定款ノ絶對的必要事項ノ中デ登記ヲ必要ト致シマスルモノ、目的ニ、商號ニ、資本ノ總額ニ、出資一口ノ金額デアリマス、其ノ他ノ登記事項ニ付キマシテハ登記ヲ必要ト致シマスルモノ、目的ニ、商號ニ、資本ノ總額ニ、出資一口ノ金額デアリマス、其ノ他ノ登記事項ニ付キマシテハ

シテ居リマスルガ、ソレハ法中改正法律案ノ規定ヲ準用尙第三項ニ商法中改正法律案ノ規定ヲ準用第一編總則第三章商業登記ニ關スル規定ト、ソレカラ會社ニ付テノ規定デアリマスルガ、支店所在地ニ於テ爲スベキ設立ノ登記、ソレカラ支店新設ノ場合ノ登記、本店又ハ支店ノ移轉ノ登記、ソレカラ一般登記事項ガ變更ニナツタ場合ノ登記ノ規定デアリマス、是等ハ總テ會社ト同様ニ取扱ッテ宜イト思ヒマシテ、茲ニ之ヲ準用致シタ次第デアリマス、第十四條デアリマスガ、是ハ先程申述ベマシタ填補責任ノ規定デアリマシテ、現物出資ニ、財產引受、此ノ一ツニ付キマシテ財產ノ評價ガ著シク過當デアツタ、斯ウ云フ場合、即チ實額ガ少イノニ評價ヲ非常ニ高クシタ、即チ羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ッタ合ニハ、會社成立當時ノ社員ガ之ニ關係シテ、其ノ評價ヲ致シタノデアリマスルカラ、之ニ責任ヲ持タセマシテ、會社ニ對シテ是等ガ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ責メガアルト云フコトニ致シマシテ、是ガ社員ガ其ノ出資ノ金額ヲ以テ限度トシテ、有限責任デアルト云フ所ノ例外ヲナスマモノデアリマス、即チ有限會社ノ基礎ノ鞏固ヲ圖リマスガ故ニ、斯様ナ規定ヲ以テ臨ンダ次第デア

リマス、是レ即チ先程申シマンシタ有限會社ノ設立手續ニ付テ法律ノ慣習ガ株式會社ニ比シテ甚ダ少イノデアリマスルカラ、一面面斯様ナ責任ヲ課スルコトヲ以テ必要ト存ジタ次第デアリマス、第五十條ハ拂込ノ未濟ナ金額ガ、或ハ現物出資ノ給付ノ未濟ナ財產ガアリマシタラバ、會社成立當時ノ取締役、監査役、社員、是等ガ連帶シテ其ノ未濟部分ノ拂込ヲスルトカ、若シクハ給付未濟財產ノ價額ノ支拂ヲシナケレバナラナイト云フコトニ致シタノデアリマシテ、此ノ填補責任ハ前條ノ填補責任ト其ノ趣旨ガ全ク同様デアリマス、次ニ第十六條デアリマスルガ、前二條ノ填補責任ノ規定ヘ、此ノ有限會社設立ニ關スル規定ノ中デ重要ナモノノツヅアリマス、是ガ填補責任ノ規定ヲ此處ニ置イテアルノデアリマスルケレドモ、會社自身ノ、之ヲ免除ヲ致シマシタコトハ、法律ガ此處ニ掲ゲル嚴格ナル規定ヲ設ケタ趣旨ガ全ク沒却ヲサレマスルカラ、是ハ會社成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタ後デナケレバ免除ガ出來ナイ、五年内ハ決シテ免除ハ出來ナイモノデアルト云フコトヲ明カニ致シマンテ、前二條ノ責任ノ確保ヲ圖ツタ次第デアリマス

○委員長(山岡萬之助君) 第二章・御不審
ノ點ガアリマシタ、御質問ヲ願ヒマス
○山隈康君 此ノ法案ハ先刻申述ベマスル
如ク改正商法ノ準用ヲ此ノ法典ニ求メマス
ルト、三百條以上ノ大法典デアリマス、只
法文ヲザツ取調べマヌニシテモ、一日位デ
ハナカ〜容易ニ一應法文ノ朗讀モ出來ナ
イ次第デアリマス、從ツテ御尋ネ致シマス
ルコトガ、或ハ的外レノ御尋カモ知レマセ
ヌガ、其ノ點ハ豫々御諒承ヲ願ツテ置キタ
イト思ヒマス、第一、是ハ小サイコトデア
リマスルケレドモ、十三條ニ付テ御伺ヒシ
タイト思ヒマス、十三條ノ登記事項ニ「第
六條第一號乃至第四號ニ掲タル事項」サウ
シテ先列特ニ御話ニナリマシタ第六條ノ第
五ノ社員ノ氏名及住所ト云フコトハ、是ハ
記載ガナクシテ、ソレハ更ニ此ノ第七ノ最
後ノ改正商法ノ六十四條ノ第一項、即チ六
十四條ノ第二項ニ依リマスルト、商法ノ六
十三條ヲ準用シタイ、六十三條即チ、目
的、二、商號、三社員ノ氏名及住所、ソコ
デ若シ此ノ準用デ差支ナイトスレバ、六十
三條ノ第一乃至第三デ云ツタヤウナコトヲ
掲ゲル必要ガナイト思ヒマスルガ、若シソ
レガ掲ゲル必要ガアルトスレバ、何ガ爲ニ
此ノ六條ノ第五項ハ之ニ掲ゲズシテ殊更ニ

○政府委員(大森洪太君) 只今御指摘ノ通りニ、第六條ノ第五項デアリマスルガ、是ハ定款ノ記載事項ニ致シマシタコトヲ先程申述べタ通リデアリマス、併シ是ハ第十三條ノ登記事項ニハナツテ居ナイノデアリマス、即チ之ヲ登記スルノ必要ガナインデアリマス、或ハ是ハ人の會社タル色彩ヲ持ツテ居ルノデアリマスカラ、定款ニ之ヲ明カニスルト共ニ、登記事項ノ方ニモスルガ宜イト、斯フ云フ御意見モアラウカト存ズルノデアリマス、實ハ立案ノ際ニモ其ノ手續ガ大部論議ノ目的ニナツクノデアリマス、併シ此ノ社員ノ移動ト云フコトニ付テハ先程申述べマシタ通リニ、極度ニ之ヲ防止シテ居リマスケレドモ、併シ起ルコトハ起リ得ルノデアリマス、左様ナ場合ニ一々之ヲ登記スルト云フコトガ煩雜デハナイカ、又之ヲ登記ニシテ、一般ニ公ニスル程ノ必要モナクハナイカ、斯様ニ考ヘマンシテ、社員ノ氏名、住所ニ付テハ登記事項ニ致サナカッタノデアリマス、併シ此ノ社員ノ氏名、住所ハ第二十條ニモ明カデアリマスルガ、社員名簿ニハ記載ヲシテ置カナケレバナラナイノデアリマス、即チ定款ト社員名簿ト相俟

チマシテ誰ガ社員デアルカト云フコトハ明

白ニナルノデアリマスカラ、必ズシモ登記

ヲスルノ必要ナシ、斯ウ云フ考ヘデ十三條

カラハ除イタ次第デアリマス

○山隈康君 ソコニ私ハ疑ヲ存スルノデア

リマスガ、最後ノ此ノ六十四條第二項ノ規

定ハ有限會社ニ之ヲ準用ストアリマスルノ

ハ、六十四條ノ二項ニハ目的、商號、社員

ノ氏名及住所トアリマスルカラ、之ニ依ル

ト、登記ヲシナクチヤナラナイノデヤナイ

カ、ソレトモ登記ハ要ラヌト、斯ウ云フコ

トニナリマスカ

○政府委員(大森洪太君) 此ノ第十三條ノ

第三項ニ於キマシテ、商法中改正法律案ノ

第六十四條第二項ヲ準用致シマシタノハ、

設立登記ヲ本店ノ所在地ト致シマシタ後

ニ、支店ノ所在地ニ同ジ趣旨ノ

登記ヲシロト云フ部分ヲ明カニスルガ爲ニ

ハ關係ナシニ支店ニ於テヤレト云フ其ノ趣

旨ヲ明カニスルガ爲ノ準用デアッタノデア

リマス

○山隈康君 只今政府委員ノ仰セノ如ク、

サウソレデ解釋ガ出來ルノデスカ、單ニ第

二項ト書イテアル以上ハ第二項全部ヲ指ス

カノヤウニ解セラレマスガ、第二項中ノ一

部デスネ、其ノ點ノ解釋ハ……

○政府委員(大森洪太君) 或ハ極メテ正確

ニ申シマスレバ、非難ノ餘地ガアリマスカ

モ知レマセヌケレドモ、先ヅ運用ニ於テ決

シテ保障ノナイモノト存ジテ居リマス

○山隈康君 第十四條ト第十五條、兩條ニ

對シテ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、此ノ會

社ノ成立當時ニ於ケル實價ガ定款ニ定メタ

ル價格ニ著シ不足スル場合又ハ拂込若シ

クハ給付ノ未濟ナル出資ノアル場合、此ノ

際ニ對シマシテハ勿論出資者ニ、社員ニ對

シテ直接ニ請求若シクハ強制執行等ヲ爲ス

權利ノアルト共ニ、他面ニハ是等ノ取締役、

監査役及社員ニ連帶請求權ガアルト解釋出

來ルノデアリマス、斯ウ云フコトハ認メラ

レルノデアリマセウカ、斯ウ云フ場合ニ、

社員、取締役及監査役ニ對シテ請求シタ場

合、是等ノ人々ハ社員ニ十分ソレヲ支拂フ

資格ガアリ、且強制執行モ容易ニ執行ガ出

來ルト云フコトヲ署名ヲ致シマシテ、直接

ニ取締役及監査役ニ對シテ請求ヲ爲スコト

ニ對スル抗辯權ハ御認メニナツテ居ナイノ

會社ノ社員ノ直接ノ責任ニ付テハ規定ガア

ルノデアリマシテ、會社ノ債權者ガ合名會

社ニ請求シ得ルコトハ勿論デアリマスルガ、併シ合名會社ノ社員ニ請求スルト云フ場合ニ、今御指摘ニナリマシタ抗辯權ヲ認メテアリマス、丁度ソレト同ジヤウナ規定ヲ設ケタ

方ガ宜クハナイカト云フ御意見ノヤウニ伺ヒ

マシタガ、サウ致シマスルト、成程此ノ請

求ヲ受ケル方ノ取締役、監査役、社員ニ

對シテハ好都合デアリマセウケレドモ、

此ノ資本ノ充實ト云フコトヲ期スル關係

ノ規定デアリマスルガ故ニ、左様ナ抗辯

權ヲ許シテ居リマシテ、手續ガ長クナ

ル、又事ガ煩雜ニナルト云フコトハ賴モ

シクナイノデアリマシテ、是ハサウ云

フ抗辯權デナシニ、總テ明カニ連帶ノ

責任ヲ持ツコトニシタ方ガ宜クハナイカト

マスケレドモ、取締役、監査役ニ對スル訴

ノ提起ニ付キマシテハ、其ノ代表者ヲドウ

スルカト云フコトニ付テハ商法中改正法律

案ニ其ノ規定ガアルノデアリマシテ、ソレ

ヲ後ニ取締ノ方ニ準用シテ居リマスカラ、

其ノ關係デソコハ都合好ク參ルト存ジテ居

リマス

○政府委員(大森洪太君) 只今御述ニナリ

ヲ達スルニ適當デハナイカト存ズル次第デ

アリマス

○山隈康君 此ノ兩條ニ對シテ私甚ダ疑ヲ

持ツテ居リマスノハ、此ノ取締役監査役、社員ガ連帶ヲシテ不足額若シクハ給付未濟額

ノ支拂ヲスル義務ガアル、此ノ際ニハ何人ガ會社ヲ代表シテ請求ヲ爲ス訴訟ヲ提起ス

ルノデアリマセウカ、普通ノ會社ニ於ケル

又十分ノ一ノ株主カラ會社ニ對シテ請求ニ

ナリマシタ場合ニ於テハ、十分ノ一ノ株主ヨリ代人ヲ指定スルコトガ出來ルト云フ規定

モアルヤウデアリマス、併シソレガ指定シ

ナカツ場合若シクハ其ノ他ノ場合ニ於テ

規定ガナイ以上ハ、總會デ其ノ代人ヲ選定ス

ル權利ヲ商法上ニハ必要ダト思ヒマス

○政府委員(大森洪太君) 只今御述ベノ點

ハ後ニ申上ゲヨウト存ジテ居ツタノデアリ

マスケレドモ、取締役、監査役ニ對スル訴

ノ提起ニ付キマシテハ、其ノ代表者ヲドウ

スルカト云フコトニ付テハ商法中改正法律

案ニ其ノ規定ガアルノデアリマシテ、ソレ

ヲ後ニ取締ノ方ニ準用シテ居リマスカラ、

其ノ關係デソコハ都合好ク參ルト存ジテ居

リマス

○委員長(山岡萬之助君) モウ宜シウゴザ

イマスカ、ソレデハ第三章ニ移リマス、社員ノ権利義務、之ヲ議題ニ供シマス

○政府委員(大森洪太君) 第三章ハ社員ノ

デアリマス、丁度此ノ編別ノ體裁ハ株式會社ニ對スル規定ヨリモ寧ロ合名會社又ハ民法上ノ規定ニヨク似テ居ルノデアリマス、
斯様ニ編別ヲ定メマシタ方ガ明カデアルト存ジタ次第デアリマス、第十七條ハ社員ノ責任ノ基本ヲ定メタ規定デアリマシテ、原則トシテ出資ノ金額ヲ限度トスル有限責任デアルト云フコトヲ明カニ致シタノデアリマス、唯「本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外」トアリマスカラ、本法ハ既ニ其ノ例外ヲ一二箇所認メテ居ルノデアリマス、ソレハ先程申述ベマシタ第十四條ノ填補責任、第十五條ノ填補責任、ソレカラ後ニ、是ハ第十四條、第十五條ハ設立ノ場合ノ規定デアリマスルガ、同様ノ趣旨ノ規定ガ資本増加ノ場合ニモアルノデアリマス、ソレハ第十五条及第五十五條デアリマス、只今御配リヲ致シマシタ此ノ説明書ノ中ニ、第十七条ノ説明ト致シマシテ、第五十五條ヲ指摘スルコトヲ脱カシテ居リマシテ誠ニ恐縮デアリマス、尤モ此ノ第五十五條ハ取締役、監査役ノ填補責任デアリマシテ、取締役、監査役ガ社員デナイ場合モアリ得ルノデアリマスルカラ、或ハ是ハ社員ノ責任ニ當ラナイモノトシテ除クコトガ至當デアツカ

モ知レマセヌケレドモ、併シ取締役、監査役ガ社員デアリ得ル場合モアルノデアリマスカラ、此ノ説明ノ中ニ第五十五條モ共ニ援用シタモノト御諒承ヲ願ヒタイノデアリマシテ、條文ニ對スル私共ノ説明ガ疎漏アッタト云フ點ノ御諒承ヲ仰グ次第アリマス、第十八條ハ各社員ガ出資ノ口數ニ應ジテ持分ヲ持ツト云フコトヲ明カニ致シタノデアリマス、株式ト云フ文字ハ避ケマシタケレドモ、實質ニ於テ何等相違ガナイノデアリマシテ、出資ノ口數ニ應ジテ持分幾ツヲ持ト云フ、斯ウ云フ工合ニ致シマシタ、其ノ方ガ先程申上ゲマシタ通り議決權ノ計算ニ付キマンテモ利益配當ノ割合ニ付キマシテモ大變樂ダカラデアリマス、第十九條ハ矢張リ先程言及致シマシタ持分ノ讓渡ニ關スル規定デアリマス、即チ社員ハ此ノ社員總會ノ特別決議ナケレバ……第四十八條ニ定ムル社員總會ト云フコトハ特別決議ニ關スル規定デアリマス、其ノ特別決議ニ依ルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ譲リ渡スコトガ出來ナイノデアリマス、レバナラナイト云フ要件ハ之ヲ輕減スルコトヲ許サナイノデアリマス、輕減スルコト

ハ許シマセヌケレドモ之ヲ加重スルコトハ
或ハ結構デアルカモ知レマセヌ、デアリマ
スルカラ法文デ以テ第一項ノ但書ニ定款デ
以テ此ノ制限要件ヲ加重スルコトハ結構デア
ルト云フコトヲ明カニ致シマシタ、デアリマ
スルカラ此ノ特別決議ヘ後ニ申上ゲマスル
通リ四分ノ三以上ノ決議ト云フコトニナツ
テ居リマスルガ、是ハ或ハ五分ノ四以上ノ
決議ト云フコトニ致シマスルナリ、或ハ全
員ノ一致ト云フコトヲ必要トスルト云フコ
トニ致シマスルナリ、ソレハ自由デアリマ
ス、斯ク持分ノ譲渡ヲ非常ニ制限致シマシ
タコトハ、社員ノ人ニ重キヲ置キマスルコ
トト、サウシテ社員ノ移動ガ甚シク生ズル
ト云フコトヲ避ケナケレバナラナイト考ヘ
テ結果デアリマス、第二項ハ持分譲渡ノ結
果ニ依リマシテ、サウシテ社員ノ數ガ殖エ
ルト云フヤウナ場合ガ、生ズルノデアリマ
ス、例ヘバ甲社員ガ持分ヲ三ツ持ッテ居ル、
其ノ三ツヲ「エー」、「ビー」、「シー」ニ一ツ
宛譲渡スル、斯ウナリマスト甲ガ無クナリ
マシタ代リニ「エー」、「ビー」、「シー」三人
ノ社員ニナリマスルカラ社員ノ數ガ全體ニ
於テ殖エマス、其ノ結果先程申シマシタ五
十人ノ制限ヲ超エルヤウナ場合ニ、其ノ譲
渡ソレ自身ガ無效デアルト云フコトヲ明カ

ニ致シマシタ、併シ譲渡デアリマシテモ遺贈デアリマスルナラバ、先程申述べマシタ第八條第二項ノ關係デ、ソレハ構ハナイノデアルト云フコトヲ矢張リ第二項デ明カニ致シマシタ、第一項、第二項、斯様ニ持分ノ譲渡ニ制限ヲ設ケマシタケレドモ、社員相互ノ間ノ持分ノ譲渡デアリマスルナラ其結果社員ノ移動ヲ生ズルト云フコトハナイノデアリマスルカラ、是ハ左程虞ル、必要ガナインデアリマシテ、從ツテ第三項ニ緩和規定ヲ置キタ次第デアリマシテ、定款デ別段ノ定ヲスルコトハ構ハナイト云フコトニ致シタ次第デアリマス、第二十條ハ持分ノ移轉ニ付テノ對抗要件デアリマシテ、社員名簿ニ其ノ旨ヲ記載シナケレバナラナイト云フコトニ致シマシタ、是ハ矢張リ株式會社ニ於テ同様ノ規定ガアリマシテ、ソレト趣旨ヲ同ジクシタ次第デアリマス、第二十一條ハ有限會社ハ其ノ持分ニ付テ指圖式證券、無記名式證券、是等ヲ發行スルコトガ出來ナイト云フコトヲ明カニ致シタノデアリマス、詰リ有限會社ハ先程來申述べマスル通り、小規模ノ會社デアリマス、尤モ其ノ營業ハ是ハドノ位手廣クヤツテモ宜イノデアリマシテ、資本ノ最高限度ニモ制限ガアリマセヌケレドモ、其ノ組織ナリ其ノ

管理ナリニ付キマシテハ、甚ダ簡単ニヤッテ行クト云フノガ特質デアリマスルカラ、此又賣出シノ結果社員ニドンヽ移動ヲ生ズルト云フコトガアリマスレバ、尙更以テ有限會社ノ特質ニ副ハナイノデアリマスルカラ、斯様ナ證券ノ發行ガ出來ナイト云フコトヲ明カニ致シマシタ、第二十二條ハ持分ヲ數人デ共有スルコトハ認メマスルト同時ニ、其ノ共有ノ場合ニ商法中改正法律案ノ株式共有ノ場合ノ規定ヲ此處ニ持ツテ來タノデアリマス、即チ御承知ノ通リニ株式會社ニ於テ株式共有ノ場合ニハ權利行使者ヲ一人定メテ會社ニ届出ルコトニナツテ居リマス、又共有者ニ對スル通知催告ハ其ノ一人ニ對シテ爲セバ宜イコトニモナツテ居リマス、尙拂込ニ付テハ共有者ノ連帶責任ト云フコトニナツテ居リマス、ソレ等モ矢張リ持分共有ノ場合ニ持ツテ來タノデアリマシテ、同様ニ取扱ハウト致シタ次第デアリマス、第二十三條ハ持分ノ質入ニ付テノ規定デアリマス、第一項ニ於テ持分ガ質權ノ目的ニナル、即チ持分ヲ質ニ入れルコトガ出來ルト云フコトヲ明カニ致シマシタ、併シ之ヲ入質致シマシタ結果、社員

ニ移動ヲ生ズルト云フヤウナコトガアリマ
シテハ、是亦有限會社ノ特質ニ副ハナイデ
アリマスルカラ、第十九條第一項ノ持分讓
渡ニ付テノ重大ナル制限、ソレカラ制限ノ
規定ヲ先づ準用致シマシタ、ソレカラ持分
ノ質入ニ付テハ矢張リ社員名簿ニ記載ヲシ
ナケレバ對抗ガ出來ナイト云フ趣旨カラ致
シマシテ、第二十條ノ規定ヲ準用致シタ次
第デアリマス、次ニ第二十四條デアリマス
ガ、是ハ株式ニ付テ商法中改正法律案ガ規
定シテ居リマスルモノノ中デ、必要ナモノ
ヲ此ノ持分ニ準用シタノデアリマス、即チ
質權ノ物上代位ニ關シマスル規定、又登錄
質ヲ致シマスルナラバ、即チ會社ニ明カニ
ナルヤウナ質入ヲ致シマスナラバ、其ノ質
權ノ效力ハ利益配當金、殘餘財產分配金ニ
モ及ブト云フコトヲ明カニ致シマシタ、其
ノ登錄規定、ソレカラ又株式會社ハ自己ノ
株式ヲ取得スルコトヲ原則トシテ禁止ヲシ
テ居リマス、併シ或ハ限定ノ場合ニハ取得
スルコトモ認メラレテ居リマスルケレドモ、
ソレ等ノ場合ニハ是等ヲ成ルベク早ク處置
シナケレバナラナイト云フ規定ヲ設ケラレ
テ居リマス、ソレ等ノ規定、又株式ノ消却
ニ關スル規定、是等ヲ矢張リ持分ニ持ツテ來
タノデアリマシテ、株式ト同様ナ取扱ヲ存

シタ次第アリマス、又本條ノ第二項ハ株式會社カラ株主ニ對スル通知催告ニ付キマシテハ、便利ナ方法ガ認メラレテ居リマシテ、ソレラ矢張リ此ノ會社ガ社員ニ對スル通知催告ニモ持ツテ來タノデアリマシテ、矢張リ同様ノ取扱ニスルコトヲ適當ト認メタカラデアリマス

○山隈康君 莊ダ恐縮デスガ、チヨット十四條十五條ニ遡ツテモウ少シ不明ノ所ガアリマスカラ、御許シヲ願ツテ御尋ネ致シタノデスガ……

○委員長(山岡萬之助君) 宜シウゴザイマス

○山隈康君 有限會社ノ場合ニ於キマシテ、取締役、監査役、社員ガ連帶シテ不足額若シクハ未濟財產ノ價額ヲ支拂フト云フ義務ヲ負擔ヲサセテ居リマスガ、斯ウ云フ實際問題ト致シマシテ、總テノ者ガ殆ド債務者デアリマスルカラ、此ノ者ニ對シテ此ノ種ノ請求ヲ爲ス機會ト云フコトハ、法文デハ立派デアリマスルケレドモ、實際問題トシテ大シタ效果モナイヤウニ考ヘルノデアリマス、是ハ何デスカ、會社ニ對スル債權者ハ此ノ種ノ債利ヲ、私ハ條文全部ヲ讀ンデハ居リマセヌカラ分リマセヌガ、債權者ガ是等ノ權利ヲ行使スルコトハ認メテアルノデ

○政府委員(大森洪太君) 商法直接ニハソレヲ認メテ居リマセヌケレドモ、民法ノ御承知ノ代理訴權、ソレヲ持ツテ來マスレバソレガ適用出來ヨウカト思フノデアリマス
○山隈康君 第二ニ御伺ヒ致シマスガ、先刻御尋ヲ致シマシタ取締役ニ對シテ訴訟ヲ起ス際ニハ、商法改正草案ノ二百七十七條、此ノ準用デ差支ナイト云フコトデアリマシタガ、此ノ規定ヲ見マスルト、唯株主總會ハ他人ヲシテ代表ヲセシムルコトヲ得ト云フ代表ヲセシメナケレバナラナイト云フ命令規定ハナイ譯デス、若シ斯ワ云フ場合ニ於テ、サウ云フ事例ハ少イカモ知レマセヌノデスガ、總會デ代表者ヲ選任シナカッタ場合ニハドウナリマスカ、例ヘバ株主ノ十分ノ一ニ當ル者ガ、會社ニ對シテ此ノ責任ヲ問ウテ吳レ、十四條十五條ニ基キ請求ヲナシテ吳レト云フ請求ガアツタ場合ニ、總會ガ幸ニ代表者ヲ選定スレバ宜イノデスガ、ソレヲ疎却シタ場合ニ於テハ、何カノ救濟ノ方法ガアリマスカ

杏役ガアリマス場合ニハ、其ノ監査役ハ當然會社ヲ代表スルコトニナリマスカラ、監

査役ガアリマス場合ハ先づ問題ガ生ジナイ
ノデアリマスケレドモ、監査役ガナイ場合
ガ他ノ者ヲシテ代表スルコトヲ可トスルナ

モアリマスシ、又監査役ガアツテモ社員總會
ラバ、代表セシメルコトガ出來ルノデアリ

マス、デアリマスカラ、是ハ社員總會ノ權

限トシテ之ヲ規定シタノデアリマシテ、斯

ク規定シテ置キマスレバ、社員總會ニ於テ

ハ必ズヤ代表者ヲ定メマセウカラ、只今御

指摘ノヤウナ心配ハナカラウト存ジテ居リ

マス、併シナガラ若シ取締役ニ訴ヲ提起ス

ベキデアルニモ拘ラズ提起シナカッタ、即チ

社員總會デ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコ

トヲ否決シタト云フ場合ニハ、矢張リ商法

ノ規定ニ依レバ少數社員ガ出テ來ルノデア

リマス、唯社員ガドウシテモ代表者ヲ選定

シナカッタト云フ場合ニ付テハ、直接少數社

員カラ代表者ヲ選定シロト云フ所ノ請求權

ハ認メテ居ナイノデアリマス、デアリマス

カラ、其ノ點ニ付テハ成程御説ノヤウナ困ッタ

場合ガ生ズルカモ知レマセヌケレドモ、是

ハ株式會社ト同様デアリマシテ、實際ニ於

テソコ迄心配スル必要ハナイカト立案ノ際
ニ考ヘテ居ツタヤウナ次第デアリマス

○山隈康君 只今ノ説明ハドレ迄行キマシ

タデセウカ、第四章全部デスカ

スガ、之ヲ一ツ承リタイ

○政府委員(大森洪太君) 全ク御説ノ通り

ト存ズルノデアリマス

ト達フノデアリマスガ、併合ノ場合、若シ

クハ轉換ノ場合デモ、新シイ株式ガ出來ル

デアリマスガ、此ノ二十二條ノ共有ノ場合

ネシタインデスガ、此ノ二十二條ノ共有ノ場合

デアリマスガ、社員ノ數ハ五十人ヲ超ユルコ

トヲ得ナイ、ソコデ共有ノ場合ハ代表者ヲ

一人届出ル、サウスルト代表者ノ數ガ五十

人ヲ超エナケレバ、共有者ノ數ハ幾人ニナッ

テモ宜イト云フコトニナリマスカ、ドウ云

フ次第デアリマスカ

○政府委員(大森洪太君) 是ハ共有者ガ五

十人ヲ超エテハイケナイ、斯ウ云フ趣旨デ

アリマシテ、代表者ノ數デ之ヲ標準ニシナ

カッタノデアリマス、サウシマセヌケレバ此

ノ五十人云々ト云フ制限ガ共有ノ方法ニ依ッ

テ亂サレルト存ジタノデアリマス、共有者

個々矢張リ五十人ヲ計算スル基本ニナルト

存ズルノデアリマス

○山隈康君 手前ニ遡ツテ恐縮デスガ第八

條ノ規定ニ、社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合

ニ、遺產相續ノ場合ハ法律ノ規定ニ依ッテ當

然相續スルカラ已ムヲ得ナイト思ヒマスガ、

トシテノ問題ニナック場合ニ於テハ……

○政府委員(大森洪太君) 此ノ株式ノ併合

ヲ交付スルコトハ出來ナイ譯デスネ、質權

新タル株券……株券ト申シマスカ社員ニソレ

シタレマシタ際ニハ會社ハ株主ニ對シテハ其ノ

合ニハ株主ニ對シテハ引渡拒絶ヲ會社ハス

ベキモノデアルカドウカト云フコトヲ拜聽

シタインデアリマス

○政府委員(大森洪太君) 此ノ準用ノ關係

ガ矢張リ先程六十四條第二項デ御批判ニナ

リマシタ點ト同ジコトニナルカトモ存ズル
ノデアリマスガ、此ノ場合ニ於キマシテ準
用ニナリマスル實質ハ消却ノ場合ダケデア
リマス、從ツテ總テ此ノ條文ノ中カラ消却
ノ分ダケヲ準用スルト書イタ方ガ宜イカトモ
モ思ツテ居リマスガ、マア大體御分リカトモ
思ツテ居ルヤウナ次第デアリマス

○委員長(山岡萬之助君) 宜シウゴザイマ
スカ……ソレデハ第四章、會社ノ管理、之
ヲ議題ト致シマシテ第二十五條乃至第四十
三條迄ノ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(大森洪太君) 第四章ハ會社ノ
管理ノ規定デアリマシテ、取締役、監査
役ノ職責等ニ付テノ規定ヲ網羅致シタモノ
デアリマス、第二十五條ハ有限會社ニハ一
人又ハ數人ノ取締役ヲ置クコトヲ要スルコ
トヲ明カニシタノデアリマス、取締役ハ會
社ノ代表機關デアリ、又業務執行機關デア
リマシテ、是ガ必要ナ機關デアルコトハ申
ス迄モナイノデアリマス、後ニ監査役ニ付
テ申述ベマスルガ、監査役ハ必ズシモ必要
機關デハアリマセヌケレドモ、取締役ハ三人以上
ト云フ必要ハナイノデアリマシテ、一人デ
モ宜シイノデアリマス、從ツテ一人又ハ數人
社ニ付キマスルヤウニ、取締役ハ三人以上

リマシタ點同ジコトニナルカトモ存ズル
ノデアリマスガ、此ノ場合ニ於キマシテ準
用ニナリマスル實質ハ消却ノ場合ダケデア
リマス、從ツテ總テ此ノ條文ノ中カラ消却
モ思ツテ居リマスガ、マア大體御分リカトモ
思ツテ居ルヤウナ次第アリマス

○委員長(山岡萬之助君) 宜シウゴザイマ
スカ……ソレデハ第四章、會社ノ管理、之
ヲ議題ト致シマシテ第二十五條乃至第四十
三條迄ノ御説明ヲ願ヒマス

ト云フコトヲ文字デ明カニ致シマシタ、尙
役モ社員タルコトヲ必要トシナイノデアリ
マス、ソレハ此ノ第三十二條デ商法中改正
法律案ノ第二百五十四條ヲ準用シテ居ル結果
果デアリマスルガ、前年株式會社ニ付テ申
述ベマシタ通り、矢張リ適材適所ト云フ關係
係カラ致シマンテ、廣ク適材ヲ求メルト云
フ爲ニハ、社員タル資格ニ限定シナイ方ガト
宜イト存ズルノデアリマシテ、株式會社ト
同ジ趣旨カラ致シマシテ、矢張リ此ノ有限
會社モ左様ニ定メタヤウナ次第デアリマス、
第二十六條ハ取締役ガ數人アリマスル場合
ニ付テノ、其ノ業務執行等ノ關係ヲ規定シ
タノデアリマシテ、是ハ矢張リ商法中改正
法律案ノ第二百六十條即チ株式會社ニ於ケ
ル規定ト全ク同様デアリマス、第二十七條
ハ取締役ガ會社ノ代表機關デアルト云フコ
トヲ明カニシタモノデアリマシテ、其ノ代
表權限ニ付キマシテハ第三十二條ノ、取締
役ニ付テノ株式會社ノ規定ヲ準用シテ居ル
ノデアリマス、即チ商法中改正法律案ノ第
二百六十一條デアリマスガ、是ハ御承知ノ
通リニ數人取締役ガアリマシタナラバ、其
デアリマスルガ、會社ニ於キマシテ、共同

代表ノ定ラスルコトモ出來ルト云フコトニ相成ツテ居リマス、矢張リソレト同様ニ有限會社ヲモ律シヨウトシタノデアリマス、第二十八條ハ取締役ノ書類備置キノ義務等ニ付テ規定シタモノデアリマス、此ノ中デ第三項デアリマスルガ、社員及會社ノ債權者ハ營業時間内ハ何時ニテモ是等ノ書類ヲ閲覽スル請求權ガアルト云フコトヲ明カニシタノデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ株式會社ト全ク同様デアリマス、デスカ此ノ程度ニ於テハ是等ノ書類ヲ公ニスルト云フコトハ必要デアリマシテ、是ハ公ニ知ラシメル最小限度ノ必要ヲ此處ニ明カニシタ次第デアリマス、第二項ハ社員名簿ノコトヲ規定シタノデアリマスガ、丁度株主名簿ニ當ルノデアリマシテ、有限會社デハ之ヲ社員名簿ト云フ名前デ規定ヲ致シタノデアリマス、第二十九條ハ御承知ノ取締役ノ會社ニ對スル競業禁止事務ニ關スル規定デアリマス、是モ株式會社ニアリマスル規定ト同様デアリマシテ、競業禁止ノ義務ノアルコト、ソレカラ會社ガ之ニ付テ介入權ヲ有ツコト、又ソレ等ノ權利ノ消滅期間ト云フモノヲ定メタノデアリマシテ其ノ內容ニ於キマシテハ、株式會社ノ取締役ニ於ケルト同様デ

アリマス、第三十條モ株式會社ノ取締役ニ付テト略、同様ノ規定デアリマシテ、取締役ガ自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲ス場合ノ制限ヲ規定シタノデアリマス、株式會社ニ於キマシテハ、監査役ノアル場合アリ、又無イ場合モアリマスルカラ、若シ監査役ガアレバ其ノ承認ヲ經ナケレバナリマセヌケレドモ、監査役ガナイ場合ニハ社員總會ノ認許ヲ得ルト云フコトニ致シタ次第デアリマス、次ニ第三十一條ハ少數社員權ノ一つノ場合デアリマシテ、社員總會ガ取締役ニ對スル訴ノ提起ヲ否決シマシタ場合ニ、少數社員ガ此ノ訴ノ提起ヲ會社ニ請求スルコトガ出來ル、サウ云フ場合ニハ會社ハ請求ヲ受ケタ日カラ一月内ニ訴ノ提起ヲ必要トスルト云フコトヲ規定シタノデアリマス、尙此ノ權利ニ付キマシテハ、後ニ第三十二條デ株式會社ニ付テノ商法中改正法律案ノ第二百六十八條第一項乃至第五項ヲ準用シテ居リマス、此ノ第二百六十八條第二項乃至第五項ハ此請求ハ總會終結ノ日カラ三箇内ニシナケレバナラナイト云フコト、又此ノ訴ノ取下、和解、拋棄ニ付テノ制限又ハ擔保請求ニ關スル事項、又會社

アリマシテ、是等ヲ全ク株式會社ニ於ケルト同様ニ致サウト云フ趣旨デアリマス、但シ茲ニ御注意ラ御願ヒ致シタイコトハ、此ノ第三十一條ノ第二項ノ規定デアリマス、第一項ニ於キマシテ、少數社員權ノ規定ヲ此ノ場合ニ設ケタノデアリマス、併シ有限會社ノ特質ニ鑑ミマシテ、是等ノ少數社員權ヲ常ニ法律上認メルト云フコトニ致シマスルト、或ハ水臭クナル、有限會社ノ御互ノルカモ知レナインデアリマシテ、定款デ別段ノ定ヲシテモ宜シイト云フ理由ヲ認メタノデアリマス、是ハ株式會社ニハナイコトデアリマス、デアリマスルカラ定款デ斯ウ云フ場合ノ少數社員權ノ要件ヲ非常ニ重クスルト云フコトモ適當デアリマス、又斯ウ云フ場合ノ少數社員權ヲ全ク廢メテシマウト云フコトモ結構デアリマス、一ニ有限會社内部ノ意思ヲ尊重致シマシテ、定款ニ依ツテ如何様ニデモ出來ルト云フ途ヲ開イタノデアリマス、此ノ少數社員權ニ付テハ丁度只今申述べマシタヤウニ、第三十一條第二項ノ自由ヲ認メタ場合モアリマス、又認メナイ場合モアリマス、是ハ事ノ輕重ニ從ツタノデアリマスルガ、第三十一條ノ場合ハ其ノ

自由ガ認メラレタ一ツノ例デアリマス、是ハ御覽ノ
ニ第三十二條デアリマスルガ、是ハ株式會社ノ
通リニ商法中改正法律案ノ規定ヲ茲ニ多
ク準用シタノデアリマス、是ハ株式會社ノ
取締役ニ關スル商法ノ規定ノ中デ、有限會
社ノ取締役ニ持ツテ來ルコトヲ必要トスル
モノヲ茲ニ舉ガタノデアリマス、ソレ等ノ
規定ノ事項ノ内容ヲ申シマスルト、取締役
ノ選任ノ方法ニ關スル規定、取締役ト會社
トノ關係、即チ委任ニ關スル規定ニ從フト
云フ規定、又取締役ノ解任ニ關スル規定、
取締役ノ員數ノ缺ケマシタ場合ノ職務代行
者ノ選任ヲスルト云フコトニ關スル規定、
取締役ノ會社代表權限ニ付テノ規定、又會
社代表權限ヲ有スル者ト認ムベキ名稱ヲ附
シタ取締役ノ爲シタ行爲ニ付テ、會社ガ責
任ニ任ズルト云フ規定、詰リ代表權ガナイ
ケレドモ外部カラ見レバ如何ニモ代表權ガ
アルト云フヤウナ名前、例ヘバ常務取締役
或ハ會長ト云フヤウナ名前ヲ附ケタ其ノ取
締役ノ行爲ニ付テ、會社ガ責ニ任ズルト云
フ規定デアリマス、ソレカラ取締役ノ會社
及第三者ニ對スル損害賠償責任ノ規定、取
締役ニ對スル會社ノ訴提起ニ關スル規定、
取締役ノ受クベキ報酬ニ關スル規定、取締

フ訴ニ伴フ假處分ニ付テ、ソレニ從ツテ
行者ヲ選任スルト云フ、斯ウ云フ趣旨ノ規定、ソレカラ取締役ノ解任ヲ目的トスル株主總會前ニ、問題ニナシテ居リマスル取締役ノ職務執行ノ停止ヲスル、又ハ職務代行者ヲ選任スルト云フ、斯ウ云フ規定デアリマシテ、是等ノ諸規定ハ有限會社ノ取締役ニモ矢張リ之ヲ適用スルコトヲ必要トスルト存ジタノデアリマスルカラ、準用ノ形式デ以テ茲ニ規定ヲ致シタヤウナ次第デアリマス、第三十三條ハ監査役ノ規定デアリマス、前ニモ申述ベマシタ通りニ、監査役ハ有限會社ニ於テハ必ずシモ常ニ之ヲ要スルモノデハナイノデアリマス、定款デ一人又ハ數人ノ監査役ヲ置クコトヲ定メルコトガ出來ル譯デアリマス、デ此ノ監査役モ取締役ト同様ニ社員タルコトヲ必要トシナインデアリマシテ、是亦商法中改正法律案ト其ノ趣旨ヲ同ジクスルノデアリマス、是ヘ矢張リ商法ノ第二百五十四條以下ヲ第三十四條デ準用シテ居リマスル結果、ソレガ明カナルノデアリマス、サウシテ定款ニ監査役ヲ置クト云フコトヲ定メマシテモ、何ノ何某ヲ監査役ニスルト云フコトヲ決メマセヌ場合、置カナケレバナラナイガマダ人ガ決ツテ居ナイト云フ場

ナラナイノデアリマシテ、是ハ設立ノ際ニ
取締役ノ選任ニ付キ申述ベマシタアノ第十一
條ヲ本條ノ第二項ニ準用致シマシテ、ソ
レヲ明カニ致シテ居ルノデアリマス、第三
十四條ハ有限會社ノ監査役ニ商法中改正法
律案ノ規定ヲ持テ來タノデアリマシテ、御
承知ノ通リニ商法中改正法律案ノ監査役ニ
付キマシテハ、多クノ取締役ノ規定ヲ準用
シテ同一ニ律シテ居リマス、ソレ等ノ規定
ヲ茲ニ準用致シタノデアリマシテ、準用ニ
ナツテ居リマスル條文ノ事項ヲ擧ゲテ見マ
スルト、選任ノ方法、ソレカラ會社トノ關
係ニ關スル規定、解任ニ關スル規定、員數
ノ缺ケタ場合ニ於ケル職務代行者ノ選任ニ
關スル規定、會社及第三者ニ對スル損害賠
償責任ニ關スル規定、ソレカラ監査役ニ對
シテ會社ガ訴ヲ提起スルト云フ場合ノ規定、
報酬ニ關スル規定、選任決議ガ無效デアリ、
又ハソレヲ取消スト云フ訴ニ伴ヒマシテ假
處分ガ生ズル、其ノ假處分ニ依リマシテ監
査役ノ職務ノ執行ヲ停止スル、又ハ職務代
行者ヲ選任スルト云フ場合ノ規定、監査役
ノ解任ヲ目的トル株主總會前ニ於キマシ
テ、其ノ職務ノ執行ヲ停止スル、又ハ職務代
行者ヲ選任スルト云フ規定、ソレカラ監

査役ノ職務權限ニ關スル規定、監査役ガ取締役又ハ支配人ヲ兼ネテハイケナイト云フ規定、又取締役ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ノ會社代表者ニ付テ、監査役ヲ以テ之ニ充ツルト云フ規定、又監査役ト取締役ノ連帶損害賠償ニ付テノ規定、是等ノ諸規定モ矢張リ有限會社ノ監査役ニ持ッテ來ル必要ヲ感ジタノデアリマシテ、準用ノ形式ニ於キマシテソレヲ明カニシタノデアリマス、此ニ第三十五條デアリマスルガ、本條以下數條ハ社員總會ニ關スル規定デアリマス、此ノ第三十五條ニ於キマシテハ社員總會ノ招集者ハ原則トシテ取締役デアルト云フコトヲ明カニ致シマシタ、是亦商法中改正法律案ノ株式會社ニ於ケルト其ノ趣旨ハ同様デアリマス、本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外トアリマスルガ、其ノ別段ノ定ト申シマスルト、例ヘバ先程申シマシタ第十一條ハ各社員ガ招集シ得ルコトヲ規定致シテ居リマス、又第三十七條ニ依リマシテ少數社員權ノ行使トシテ是等ノ者ガ招集スル場合モアリマス、ソレ等ヲ指シタノデアリマシテ、ソレ等以外ノ場合ニ於テハ取締役ガ常ニ之ヲ招集スルノデアリマス、第三十六條ハ招集ノ手續ニ付テノ規定デアリマスルガ、

株主總會ノ招集ニ比ベマシテ餘程餘裕モアリ、又簡單ニモナツテ居リマス、詰リ御承知ノ通りニ株式會社ニ於キマシテヘ、會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ通知ヲ發シナケレバナリマセヌガ、有限會社ニ於テハソレハ一週間前デ宜シト云フコトニナツテ居リマス、ノミナラズ此ノ期間ハ定款デ以テ更ニ之ヲ短縮シテモ構ハナイト云フコトヲ明カニ致シテ居リマス、此ノ趣旨ハ有限會社ノ社員ハ比較的少數デアリマスルシ、互ニ知ツテ居ルソレヲ公ニ告ゲル公告ヲスルト云フヤウナ必要ハナイノデアリマシテ、之ヲ簡單ニ致シタノデアリマス、尙此ノ外ニ招集ノ手續ニ付キマシテハ、第三十八條ノ便宜的方法モアリマスルシ、又後ニ申述べマスルガ、第四十二條モ書面表決ト云フ便利ナ方法モ考ヘラレテ居ルノデアリマス、次ニ第三十七條デアリマスルガ、是ハ少數社員權ノ行使トシテノ總會招集ノ請求ノ規定デアリマス、是亦株式會社ト同様デアリマスルケレドモ、此ノ第二項デ御覽ニ相成リマスル通りニ、第三十一條第二項ヲ準用致シマシテ、是ハ先程モ申述ベマシタ通りニ、定款デ別段ノ定ラシテモ宜イト云フ規定デアリタ、是ハ先程モ申述ベマシタ通りニ、定款

件ヲ更ニ制限致シマシテ、又之ヲ全然認メ
ナイコトニシテモ宜イノデアリマシテ、此
ノ點ニ付テ會社ノ自由ヲ認メタノデアリマ
ス、次ニ第三十八條デアリマスルガ、是ハ
先程言及シタ所デアリマスルナラバ、總社員ノ
若シ同意ガアリマスルナラバ、招集手續ヲ
經ナイデ、即チ一週間前トカ、或ハ定款所
定ノ期間前トカ云フヤウナ必要モナク、又
通知ヲ發スルト云フ必要モナイノデアリ
マシテ、總社員ノ同意サヘアレバ、或機
會ニ集ツタ、其ノ他ノ目的ノ爲ニ集ツタ席
上デヤツテモ宜イノデアリマス、或ハ電話等
ノ呼出シデモ宜イノデアリマシテ、之ヲ極
メテ便利ニ致シタ次第デアリマス、第三十
九條ハ議決權ノ數ノ問題デアリマシテ、是
ハ原則トシテ定款ノ一口ニ付キ一箇ノ議決
權ヲ持ツコトニナッテ居リマス、併シ但書
ニ於キマシテ定款ヲ以テ此ノ議決權ノ數ニ
別段ノ定ラスルコトヲ認メテ居リマス、御
承知ノ株式會社ニ於キマシテ十一株以上有
スルモノノ議決權ヲ制限シテモ宜イト云フ
ト定メル必要モナイノデアリマシテ、是等
規定ガアリマスガ、アノヤウニ制限シテモ
宜イノデアリマス、又必ズシモ十一株以上
ニ付別段ノ定ラシマスルコトハ定款ノ自由
ニアリマス、但シ是ハ解釋上ノ問題デアリ

ヒマスルガ、當然ノ結果トシテ是認サレルト思
云フコトハ、是ハ會社トシテノ性質上定款
ノ規定ヲ以テシテモ出來ナイカト存ズルノ
デアリマス、第四十條デアリマスルガ、
是ハ特別決議ヲ要スル事項ヲ此處ニモ列
舉シテ居ルノデアリマス、是ハ矢張リ御
承知ノ商法中改正法律案ニ於ケル規定ト
同様ノ規定ヲ此處ニ持ッテ來タノデアリマ
スガ、第四十條ノ第一項ニ掲ゲテアリマスル
事項ハ何レモ重要ノ事項デアリマスルカ
ラ、是ハ必ず特別ノ決議ヲ必要トスルト
云フコトヲ明ニ致シタノデアリマス、ソ
レカラ第三項ノ規定デアリマスガ、是ハ所
謂事後設立ニ付テノ制限デアリマシテ、
此ノ事後設立ノ規定ガナイ場合ニ屢々是ガ
濫用サレタト云フコトヲ承ッテ居リマス、ソ
レデスカラ、斯様ナ場合ニハ獨立決議ヲ必
要トスル、是亦商法中改正法律案ノ規定ト
全ク同様デアリマス、次ニ第四十一條デア
リマスルガ、是ハ社員總會ニ付キマシテ株
式會社ノ株主總會ノ規定ヲ準用シヨウトシ
タモノデアリマシテ、準用ニナッテ居リマ
ス、規定ノ内容ハ總會招集ノ時期、詰リ每
年一回、或ハ利益配當ヲスルナラバ、其ノ
度毎斯ウ云フ規定デアリマス、ソレカラ總

會ノ招集ヲ決スル方法、總會ニ於ケル検査役ノ選任、總會ノ決議方法、是ハ通常決議ノ決議方法ニアリマス、議決權ノ數ノ算定、總會ノ延期、續行、議事錄ノ作成、總會決議ノ取消、變更、ソレカラ決議無効確認ノ訴、是等ニ付キマシテ商法中改正法律案ニ於キマシテ現行法ヲ大分改メタリ、又新設致シマシタモノガアリマス、ソレ等ノ規定ト同様ニ有限會社ヲモ支配ヲシヨウト云フ、斯ウ云フ趣旨デアリマシテ、矢張リ準用ノ形式ヲ以テソレヲ明カニ致シタノデアリマス、第四十二條デアリマスルガ、是ハ先程申述ベマシタ書面決議ノ便法ヲ此處ニ開イタ次第デアリマス、矢張リ有限會社ノ特質カラ致シマシテ、常ニ必ズ寄合テ顔ヲ合へセテ、ソコデ論議ヲ經タ上デナケレバ、決議ガ出來ナイトスルコトハ、寧ロ甚ダ水臭イ關係デアリマシテ、若シ總社員ノ同意ガアリマスルナラバ、書面デ之ヲ簡易ニ運ンデモ宜イト云フ趣旨カラ、此ノ第四十二條ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、第四十二條ノ第一項ハ總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ總社員ノ同意ガアリマスレバ、書面デ決議ヲシテモ宜イ、必ズシモ相集ツテ辯論ヲ闘ハセタ上デナケレバ、決議ガ出來ナイト云フコトデナク、書面ニ依ル表

決ヲ此處ニ是認シタノデアリマス、第二項ハ第一項ト似テ非ナル場合デアリマスルガ、決議ノ目的タル事項ニ付キマシテ總社員ガ書面ヲ以テ同意ヲ表シマシタナラバ、書面ニ訴、是等ニ付キマシテ商法中改正法律案ニ依ル決議ガアッタモノト看做ス譯デアリマス、第一項ノ場合ハ總社員ニ於テ豫メ此ノ問題ニ付テハ書面ニ依ル表決デ宜シイト云フ同意ガアッタ場合デアリマス、處ガ第二項ハ總社員ガ豫メ此ノ事項ニ付テハ書面ノ表決デ宜シト云フコトハ決メナインデアリマスルガ、或事項ニ付テ總社員ガ書面デ返事ヲシタ、ソレガ悉ク同意ニナッテ居ルト云フヤウナ場合デアリマス、例ヘバ取締役ノ方カラ何ノ某ヲ取締役ニ選任スル件ト云フノデ總會ヲ開キタイト云フ通知ガアッタ場合、總社員ガ皆悉ク賛成シタ、斯ウ云フ返事ヲ出シマシタナラバ、其ノ總テノ返事ガ集リマシタ時ヲ以テ書面ニ依ル決議アリタルモノト看做シテ宜シカラウト云フノガ第二項ノ趣旨デアリマス、第三項ノ書面ニ依ル決議ハ總會ノ決議ト同様デアッテ、又之ヲ選定ラシナケレバ、會社ノ訴訟ガ提起ガ出来ヌノデアリマスルガ、是デ當然強制セラレルト解シテ差支ナイノデアリマセウカ

○政府委員(大森洪太君) 御尤ノ御意見デアリマスルガ、是等ノ御懸念ハ二様ノ點カラ之ヲ考ヘテ見タイト存ズルノデアリマス、先づ此ノ書面表決ニ付キマシテモ矢張リ決議取消ノ訴ガ適用ガアルノデアリマス、ガ甚ダシク不公正ニナサレマシタ場合ニハアリマシテ、其ノ途ハ決シテ杜絶ハサレテ居ナインデアリマス、又成程五十人、或ハソレ以上ノ場合ニ於キマシテ書面表決ヲ致シマスルト、正確ヲ缺クト云フ場合モアリ

付テハ矢張リ總テ普通ノ總會ト同様ノ規定ヲ以テ臨マナケレバナラナイノデアリマシテ、其ノ關係ヲ此處ニ明カニ致シタ次第デアリマス、是ガ宅廻リシテ、書面デ出シスカ

○委員長(山岡萬之助君) 御質問アリマセ

員ノ數ノ増加ヲナスコトモ想像セラレルノデアリマス、是ガ宅廻リシテ、書面デ出シスカ

○山隈康君 三十一條ニ付テ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、先刻私ノ疑ヲ差插ンデ置キマシタ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ニ、監査役ガナク、又十分ノ一以上ニ當ル株主ヨリ代表者ヲ指定シナカッタ場合ニ於テハ甚ダ困ルデハナイカト云フコトヲ申述ベタ次第デアリマスルガ、此ノ規定ニ依リマスルト「社員ガ訴ノ提起ヲ會社ニ請求シタルトキハ、會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス」トアリマスカラ、此ノ際ニ於テハ監査役ガナク又ハ代表者ヲ指定シナカッタ場合ハ、此ノ會社ノ總會デ是非トモ代表者ヲ選定スル義務ガアッテ、其ノ選定ラシナケレバ、會社ノ訴訟ガ提起ガ出来ヌノデアリマスルガ、是デ當然強制セラレルト解シテ差支ナイノデアリマセウカ

○政府委員(大森洪太君) 全ク御説ノ通りアラウト存ジマス

○山隈康君 ソレカラ只今ノ最後ノ書面ニ依ル決議、サウシテ是ハ總會ノ決議ト同様

マセウケレドモ、斯様ナ場合總テ總社員ノ
同意ヲ要件ト致シテ居リマスカラ、第一項
然リ、又第二項然リデアリマス、總社員ガ
左様ニ同意致シマスルノハ餘程事ガマア穩
健ニ運バレル場合デアリマシテ、社員ノ中
デ其ノ事項自身ニ付テ反對デモアルヤウナ
場合ニハ、必ズヤ斯様ナ總社員ノ同意ト云
フコトヘ得ラマセヌカラ、實際ノ運用ニ
於キマシテ、固ヨリ將來ノコトデアリマス
ルカラ、豫想ハ出來マセヌケレドモ、相當
圓滿ニ運ブノデハナイカト考ヘテ居ルヤウ
ナ次第デアリマス

○政府委員(大森洪太君)　此ノ案ノ論議ノ際ニ於キマシテモ此ノ書面表決ノ問題ニ付テハ種々議論ガ上下サレタノデアリマス、只今御説ノヤウナコトモ問題ニナッタノデアリマスルケレドモ、斯ウ云フ會社ノマア特質カラ考ヘテ行キマシテ、サウシテ而モ總社員ノ同意ヲ必要トシテ居ルノデアリマスルカラ、先ツ大丈夫運用サレルデアラウト云フヤウナ總テ見込ニ落著イタヤウナ次第デアリマシテ、尙決議取消ノ訴ニ付キマシテハ甚ダ小サイコトヲ申述ベテ恐縮デアリマスルガ、固ヨリ斯様ナ決議取消ノ訴ノ出マスルコトハ歡迎スル次第デハアリマセヌケレドモ、ソレガ若シ提起ヲサレマシタ場合デモ其ノ瑕疵ガ補完セラレマシタ時、又ハ會社ノ現況、其ノ一切ノ事情ヲ斟酌シテ寧ロ請求ヲ棄却シテ然ル場合ハ請求ノ棄却ガ出來ルト云フ、御承知ノ商法中改正法律ノ規定ガ矢張リ此處ニ準用ニナリマスカエ、其ノ場合ニ左様ナ適當ナ處置ヲモ講ズルコトガ出來ルト云フヤウニ御了承願ヒタスノデアリマス

○山隈康君 是ハ四十條ノ末項ノ、是ハ商法ノ二百四十五條ト同趣旨デアリマスカ、此ノ法文ノ解釋ヲ今一應願ヒタイト思ヒマス
○政府委員(大森洪太君) 是ハ御承知ノ通りノ事後設立ト申シマスカ、ソレニ關スル規定デアリマシテ、會社ガ設立後二年以内ニ其ノ設立前カラアリマスル財産デアリマシテ、之ヲ營業ノ爲ニ繼續シテ使ヒマスルモノヲ、或一定價格以上ノ高イ値段デ買取ル、斯ウ云フヤウナコトニ付テ制限ヲ設ケタモノデアリマス、即チ會社設立前カラ存 在シテ居ル財產ヲ會社設立後間モナキ期間内ニ買フ、而モ其ノ財產タルヤ直グ使用シテシマウモノデハナイノデ、相當繼續シテ營業ノ爲使用スルモノデアル、斯ウ云フヤウナ場合デアリマス、左様ニ致シマスト、丁度現物出資ナリ、財產引受ナリト實質ニ於テ大差ガナイノデアリマス、デアリマスカラ、斯様ナモノヲ買ヒマス際ニハ得テ不當ナ値段デ買受ケルト云フ約束ガ考ヘラレルノデアリマシテ、實際ニ於テモ左様ナ弊害ガ屢々起ツサウデアリマス、デアリマスカラ、一面ニ於テ現物出資ナリ、財產引受ナリニ付キマシテ相當嚴重ナ規定ガ設ケラレテ居リマス關係上、他面之ニ付テモ矢張

リ十分ナル覺悟ヲ以テ臨マナケレバナラナ
イト云フ見地カラ致シマシテ、是ハ特別決
議ヲ必要トスルト云フコトニ定メタヤウナ
次第デアリマス

○山隈康君 能ク了解ヲ致シマシタガ、是
ハ例ヘバ會社ガ出來テ、會社營業ノ場所ガ
マダ會社ノ所有ニナツテナイヤウナ場合ヲ
多ク指スノデアリマスカ、實際問題トシ
テ……

○政府委員(大森洪太君) 御説ノヤウナモ
ノハモ適例デアラウト存ジマス

○委員長(山岡萬之助君) 別段御發言モナ
イヤウデアリマスカラ、本日ノ議事ハ此ノ
程度デ止メマシテ、明日以後午前中繼續シ
テ議事ヲ進メタイト思ヒマスガ、ソレデ宜
シウゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(山岡萬之助君) デヘ御異存ナケ
レバ左様ニ決シマシテ、本日ハ是ニテ散會
致シマス

午後零時十七分散會

出席者左ノ如シ

委員長 山岡萬之助君

委員 子爵舟橋 清賢君

中川 健藏君

男爵奧田 剛郎君

山隈 康君

大西虎之介君

政府委員

司法省民事局長 大森 洪太君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

司法省調查部長 井上 登君